

平成 24 年 2 月 20 日午後 6 時より大学管理棟 9 階にて第 7 回リウマチタワーミーティングが開催されました（両科併せて 27 名の参加）。この会はリウマチ内科と整形外科の連携を深めようと当時のリウマチ内科の教授であった山田先生と当科丸毛教授のお二人のお考えのもと 2006 年から年一回のペースで開催されております。

始めに丸毛教授より今後のリウマチ診療に関して、5 年後に完成予定の新外来棟へ移転の際にはリウマチ内科と整形外科合同で「関節」を診察できれば患者のためになるのではとのお言葉を頂きました。

ついで、当科、窪田誠先生より「関節リウマチ足部治療のパラダイムシフト」と題した演題を発表していただきました。関節リウマチの薬物療法は近年めまぐるしく進歩しています。最初の生物製剤であるレミケードが 2003 年に登場して以降、これまでに生物製剤は 6 剤が誕生し、さらには MTX の増量承認など、まさにパラダイムシフトが起きています。痛みをとる治療から長期予後までも視野に入れた治療です。一方これまでリウマチ前足部に対する整形外科手術では母趾 MTP 関節固定術、II～V 趾切除関節形成術などが行われてきました。これらの手術は破壊された関節には除痛効果や整容面では大きな効果上げていました。薬物療法が進化した現在では急速に骨破壊をきたす症例が減少し、さらには著しい関節破壊の症例も減少してきており、それに伴う術式の変更がここ数年報告されてきました。通常の外反母趾手術が進歩してきたのに併せて、それらのテクニックをリウマチ患者に応用し、母趾には rapidus 法（中足骨近位短縮骨切りによる関節温存手術）、II～V 趾には weil 法（中足骨近位斜め短縮骨切り術）を行い、これにより関節は温存され、さらには機能も温存されるというものでありました。

発表の後で質疑応答があり、

- ・他の関節（股関節・膝関節）が変形している場合には股・膝関節の手術を先に行うのが過重負担の面からは望ましい。
- ・前足部の手術に際し入院期間の目安は 2～3 週間。
- ・手術の適応は第 II 趾が母趾にのり上げて脱臼している症例や胼胝形成を繰り返す症例などである。

次いでリウマチ内科の演題の発表があり、1 題目は「関節結核の 1 例」でありました。症例は 67 歳女性で、両足関節痛、貧血、不明熱を主訴に来院されました。リウマチ因子、抗 SS-A 抗体が陽性であったため鑑別には関節リウマチ、悪性リンパ腫、腫瘍など疑われましたが、足関節の関節穿刺にて結核菌が証明され、結核の診断がつけました。本症例では両膝関節炎も併発しており（穿刺はできず）リウマチ因子陽性の事からベースに膠原病があった可能性や結核による反応性関節炎（Poncet 病）の可能性も示唆されました。結核の中で肺外病変は 20% であり、そのうち関節結核は 33%（全結核のなかで 6.6%）、結核は増加してきているとの報告もあります。本症例は胸部 X 線では異常陰影を認めず結核と診断がつくまで 10 日間を要しており、関節炎をきたす鑑別疾患に結核を念頭に置いておく必

要を改めて認識させられました。

2 題目の症例は「pseudothrombophlebitis の 1 例」で、多関節痛出現ののち左下肢に腫脹、発赤、熱感が出現し DVT を疑って精査したところ、下肢 CT 検査では血栓は認めず、ベーカー嚢腫を認め、ベーカー嚢腫破裂に伴う下肢の腫脹と診断しました。本症例では抗 CCP 抗体が陽性で診断基準も満たし、関節リウマチと診断し生物製剤であるアクテムラを投与し症状が改善しました。治療の過程で下肢のドップラーエコーを行っており、発症早期ではベーカー嚢腫の壁に血流豊富な滑膜を認めました。リウマチにおけるベーカー嚢腫の伸展に滑膜が関与していることが示唆されました。

最後にリウマチ内科の黒坂大太郎先生より今後もこのカンファレンスを定期的に継続し将来的には関節センターの設立ができればよいのではとのお言葉をいただきました。

関節リウマチは近年、診断基準(2010 年 ACR/EURA)、治療薬(生物製剤の登場)、治療方法 (MTX の増量、アンカードラックとしての使用)、治療目標 (寛解基準の設定、**treat to target** の概念) が変更されています。治療の効果を判断する基準に患者の満足度があり、薬物療法で炎症が改善された患者ではさらなる向上を求めて破壊された関節に対する整形外科手術の重要性は高まると予想されます。特に足趾関節の評価に関しては現状では重要視されておらず今後の課題かと思われます。また診断基準の変更に伴い、早期診断ができるようになってきました。一方で鑑別疾患が重要となっており、今回のような症例を念頭に置くことが大切だと思われました。

(記 平成 11 年卒 西沢哲郎)